

金属労協 第52回定期大会

全電線からの意見・要望

発言者：窪田直樹 代議員（全電線副書記長）

金属労協の2014年度活動方針（案）に賛成の立場で、全電線として3点述べさせていただきたい。

(1) 金属産業にふさわしい労働条件の確立

1点目は、「金属産業にふさわしい労働条件の確立」についてである。

我々の金属産業、とりわけ、国内での「ものづくり」という点においては、エネルギーコストの更なる増加などもあり、引き続きその厳しさは、続くと予想されるところでもあるが、取り巻く経済環境については、各指標からも改善されつつある。

このようななか、「賃金」については、「魅力ある労働条件の構築が競争力強化の好循環を作り上げる」とし、そのための「人への投資」を掲げ、これまでも賃金改善に取り組んできたが、2014闘争に向けては、勤労者への適正な配分や、デフレ脱却といった観点からも、議論を尽くし積極的な運動の展開をお願いしたい。

(2) 民間・ものづくり・金属としての政策実現に向けた取り組み

2点目は、「民間・ものづくり・金属としての政策実現に向けた取り組み」についてであるが、4つの柱を軸に「民間・ものづくり・金属」としての観点に立った政策制度の実現に向け、ものづくり産業の国内立地の維持・強化、そして良質な、雇用の確立などに向け、マクロ環境の整備にも積極的な取り組みをお願いしたい。

また、ものづくりの根幹を揺るがしかねないエネルギー問題については、「安定かつ安価な電力確保」を図ったうえで、エネルギーセキュリティの観点など、引き続き、積極的な働きかけをしていくことを期待したい。

(3) グローバルな環境変化に対応した国際労働運動の推進

最後に「グローバルな環境変化に対応した国際労働運動の推進」についてであるが、これまでの金属労協としての国際機能の強化を図り、インダストリアル国内加盟組織との連携を強化しながら、引き続き、インダストリアル諸会議において、金属労協の見解を反映させて頂きたい。

以上、補強意見・要望を述べさせていただいたが、全電線としても、過日開催された第67回定期大会にて2013年度運動方針を確認したところである。

これに基づき活動を推進するなかで、金属労協の一員としても、本方針に対して最大限の努力と積極的な運動を展開することを申し上げ、賛成意見とさせていただきたい。

以上